

令和5年度 新規・主要事業調書

(第7回補正予算分)

目次

| | |
|---------------------|---|
| 新規・主要事業調書一覧 ----- | 1 |
| 新規・主要事業調書（個票） ----- | 3 |
| 地域活力創生部 ----- | 4 |
| 商工観光課 ----- | 4 |
| 福祉健康部 ----- | 5 |
| 生活支援課 ----- | 5 |
| 教育子ども部 ----- | 6 |
| 学校給食センター ----- | 6 |

令和5年度 新規・主要事業調書一覧

(第7回補正予算分)

令和5年度 新規・主要事業一覧(第7回補正予算分)

| 施策体系 | 事業名称 | 事業区分 | 事業概要 | 課名 |
|----------------------------|-----------------------|------|---|----------|
| 1 安全で、安心して健康に暮らせるまち | | | | |
| 2 高齢者の生活を支えるサービスの実施 | | | | |
| 1 高齢者保健福祉・地域福祉 | | | | |
| | 住民税非課税世帯等に対する重点支援給付金 | 新規事業 | 物価高に特に苦しんでいる低所得者世帯に対して迅速に支援を行うため、1世帯あたり7万円を給付する。 | 生活支援課 |
| 2 未来を担う子どもたちを育むまち | | | | |
| 2 学校教育の充実 | | | | |
| 1 学校教育 | | | | |
| | 学校給食費支援事業(小中学校給食費無償化) | 継続事業 | 市立小中学校の給食費の無償化を実施することで、小中学校の児童生徒がいる家庭に対し、原油価格、物価高騰による影響を大きく受けて多くの品目の食料品が値上げの状況のなか、経済的負担の軽減と安心して学校生活を送ることができるよう支援する。 | 学校給食センター |
| 5 地域の資源と知恵を活かし、魅力と活力あふれるまち | | | | |
| 2 商工業と観光の振興 | | | | |
| 1 商工観光 | | | | |
| | 生駒市中小企業等賃上げ促進給付金事業 | 新規事業 | 物価高騰により厳しい経営環境にある市内事業者及び従業員の支援として、市内従業員の賃上げを促進するため、生駒市中小企業等賃上げ促進給付を行う。 | 商工観光課 |

令和5年度 新規・主要事業調書（個票）

（第7回補正予算分）

令和5年度 新規・主要事業調書(第7回補正予算分) 地域活力創生部

| | | | |
|---------|--|--------|----------------------------|
| 1. 基礎情報 | | 担当課名 | 商工観光課 |
| 事業名 | 生駒市中小企業等賃上げ促進給付金事業 | | |
| 事業区分 | 新規事業 | 施策体系 | 5 地域の資源と知恵を活かし、魅力と活力あふれるまち |
| 会計区分 | 一般会計 | | 2 商工業と観光の振興 |
| 主な予算費目 | 款 5 項 2 目 2 | 1 商工観光 | |
| 補助金等 | <input checked="" type="checkbox"/> 有 (<input checked="" type="checkbox"/> 国 <input type="checkbox"/> 県 <input type="checkbox"/> その他) <input type="checkbox"/> 無 | 取組No. | 該当なし |
| 根拠法令等 | <input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 名称 | | |
| 事業期間 | <input checked="" type="checkbox"/> 単年度(5 年度) <input type="checkbox"/> 単年度繰返(年度 ~ 継続) <input type="checkbox"/> 複数年度(年度 ~ 年度) | | |

2. 事業の概要

| | | | | |
|-----------------|---|---|-------|-------|
| 現状・課題 | <p>【現状】 長らく続く物価・エネルギー価格の高騰により、事業者の経営や従業員の日常生活に大きな打撃を与えられている。</p> <p>【課題】 こうした状況下において、市内事業者への経営支援策として従業員の所得向上(賃上げ)を促進する施策の実施が重要であると考える。</p> | | | |
| 目的・意図 | <p>目指す5年後のまち</p> <p>各市内事業者が従業員の賃上げを行うことで、従業員の所得が向上するとともに、物価高で買い控えされていた財・サービスの購入が促進され、市内消費の向上にもつながることを目的とする。また、本市は大阪へのアクセスも良いため、給与水準の高い大阪で就業している市民が多い地域である。今後、更に人手不足となる可能性が高い状況の中、市内事業者への就業希望者を増やすためには、大阪の賃金水準に少しでも近づけていく必要があり、将来的な人手不足に備え賃上げを行う市内事業者を増やすことを目的とする。</p> | | | |
| 事業の概要 (全体計画) | <p>事業の対象 奈良県中小企業等賃上げ促進給付金の支給決定を受けた市内事業者 (対象数: 従業員1,200人想定)</p> <p>総事業費 (5 年度 ~ 5 年度) 60,900千円</p> | | | |
| | <p>【対象事業者】 奈良県中小企業等賃上げ促進給付金の支給決定を受けた市内事業者及び一般社団法人等(医療法人、社会福祉法人、学校法人等を含む。) ※奈良県全体の従業員に対する市内従業員の割合が6%であることから、県の交付対象20,000人×6%=市内従業員1,200人分の給付を想定</p> <p>【賃上げ時期、賃上げ率及び給付金の額】 R5.9.1~R6.2.29の間に直近の支給額もしくは奈良県の令和5年度最低賃金のいずれか高い方の賃金を1.7%引き上げること。 本条件により賃金を引き上げる従業員(正規及び非正規雇用労働者)1人につき県から5万円、市から5万円合わせて10万円が事業者へ給付される。</p> | | | |
| 各年度の概要 | 令和4年度 | 令和5年度 | 令和6年度 | 令和7年度 |
| | | 生駒市中小企業等賃上げ促進給付金 【内訳】 50千円×1,200人=60,000千円 事務費 900千円 | | |
| 事業費A(千円) | | 60,900 | | |
| 国・県支出金 | | 60,734 | | |
| 起債 | | | | |
| その他の特財 | | | | |
| 一般財源 | | 166 | | |
| 職員従事者数(人・年)B | 0 | 0.25 | 0 | 0 |
| 人件費C=B×6,700千円 | | 1,675 | | |
| 概算コスト A+C | | 62,575 | | |

3. 事業実施に当たりの必要性・有効性等

| |
|---|
| <p>可処分所得の約7割が消費される実績(平均消費性向)があるため、市内従業員の賃金を引き上げることで、財やサービスの買い控えの解消につながり、地域経済の活性化に寄与できる。</p> |
|---|

4. その他特記事項

| |
|--|
| <p>「物価高騰対応重点支援地方創生臨時交付金」を活用して事業実施する。</p> |
|--|

令和5年度 新規・主要事業調書(第7回補正予算分) 福祉健康部

| | | | |
|---------|--|--------|----------------------------|
| 1. 基礎情報 | | 担当課名 | 生活支援課 |
| 事業名 | 住民税非課税世帯等に対する重点支援給付金 | | |
| 事業区分 | 新規事業 | 施策体系 | 1 安全で、安心して健康に暮らせるまち |
| 会計区分 | 一般会計 | | 2 高齢者の生活を支えるサービスの実施 |
| 主な予算費目 | 款 3 項 1 目 1 | 取組 No. | 1 高齢者保健福祉・地域福祉 |
| 補助金等 | <input checked="" type="checkbox"/> 有 (<input checked="" type="checkbox"/> 国 <input type="checkbox"/> 県 <input type="checkbox"/> その他) <input type="checkbox"/> 無 | | ①8 生活困窮者の自立に向けた支援の充実を図ります。 |
| 根拠法令等 | <input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 名称 | | |
| 事業期間 | <input checked="" type="checkbox"/> 単年度(5 年度) <input type="checkbox"/> 単年度繰返(年度 ~ 継続) <input type="checkbox"/> 複数年度(年度 ~ 年度) | | |

2. 事業の概要

| | | | | |
|--|--|---|-------|-------|
| 現状・課題 | 物価高騰が続く中、生活に困窮している世帯に対して支援が必要な状況である。 | | | |
| 目的・意図 | 目指す5年後のまち 自助・互助・共助・公助のバランスの取れた包括的な支援・サービスの整備が進んでいる。 物価高騰により、生活への負担感が特に大きい世帯に対して経済支援として給付金を支給することにより、当該世帯の負担軽減を図る。 | | | |
| 事業の概要 (全体計画) | 事業の対象 | 住民税非課税世帯 (対象数: 約11,000世帯) | | |
| | 総事業費 (5 年度 ~ 5 年度) | 814,379千円 | | |
| 物価高騰に直面し、特に家計への影響が大きい世帯に対して負担軽減を図るため、1世帯あたり7万円を支給する。 [給付対象] ・令和5年度分市町村民税均等割非課税世帯 | | | | |
| 各年度の概要 | 令和4年度 | 令和5年度 | 令和6年度 | 令和7年度 |
| | | 重点支援給付金 住民税非課税世帯 11,000世帯 × 70,000円 = 770,000 千円 事務費 44,379千円 | | |
| 事業費A (千円) | | 814,379 | | |
| 国・県支出金 | | 814,379 | | |
| 起債 | | | | |
| その他の特財 | | | | |
| 一般財源 | | | | |
| 職員従事者数(人・年)B | 0 | 1 | 0 | 0 |
| 人件費C=B × 6,700千円 | | 6,700 | | |
| 概算コスト A + C | | 821,079 | | |

3. 事業実施に当たりの必要性・有効性等

| |
|--|
| 物価高騰により、生活に困窮している世帯に対して、生活・暮らしの支援を行う必要がある。 |
|--|

4. その他特記事項

| |
|-----------------------------------|
| 「物価高騰対応重点支援地方創生臨時交付金」を活用して事業実施する。 |
|-----------------------------------|

令和5年度 新規・主要事業調書(第7回補正予算分) 教育こども部

1. 基礎情報

| | | | | | |
|--------|--|------|--|-------|--|
| | | 担当課名 | 学校給食センター | | |
| 事業名 | 学校給食費支援事業(小中学校給食費無償化) | | | | |
| 事業区分 | 継続事業 | | 施策体系 | 2 | 未来を担う子どもたちを育むまち |
| 会計区分 | 一般会計 | | | 2 | 学校教育の充実 |
| 主な予算費目 | 款 8 項 6 目 3 | | 1 | 学校教育 | |
| 補助金等 | <input checked="" type="checkbox"/> 有 (<input checked="" type="checkbox"/> 国 <input type="checkbox"/> 県 <input type="checkbox"/> その他) <input type="checkbox"/> 無 | | 取組No. | 該当なし | |
| 根拠法令等 | <input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無 | | 名称 | 学校給食法 | |
| 事業期間 | <input type="checkbox"/> 単年度(年度) | | <input type="checkbox"/> 単年度繰返(年度 ~ 継続) | | <input checked="" type="checkbox"/> 複数年度(2 年度 ~ 5 年度) |

2. 事業の概要

| | | | | |
|------------------|--|--|-------|-------|
| 現状・課題 | <p>【現状】 国際的な原材料価格等の上昇による物価高は、依然として続いており、保護者の経済的負担となっている。</p> <p>【課題】 物価高による家計の圧迫により、子供の健やかな成長を阻害されることは避けなければならない、保護者の経済的負担の軽減を図ることが必要とされる。</p> | | | |
| 目的・意図 | <p>目指す5年後のまち</p> <p>市立小中学校の給食費の無償化を実施することで、小中学校の児童生徒がいる家庭に対し、多くの品目の食料品が値上げの状況のなか、経済的負担の軽減と安心して学校生活を送ることができるよう支援することが目的である。</p> | | | |
| 事業の概要 (全体計画) | 事業の対象 | 市立小中学校児童生徒 (対象数: 9,650人) | | |
| | 総事業費 (2 年度 ~ 5 年度) | 624,837千円 | | |
| | 【給食費無償化の費用【R4年度】】 市立小中学校の児童生徒(9,780人) 小学校児童 6,684人 × 4,400円/月 中学校生徒 3,096人 × 4,800円/月 | 【R5年度】 市立小中学校の児童生徒(9,650人) 小学校児童 6,550人 × 4,400円/月 中学校生徒 3,100人 × 4,800円/月 | | |
| 各年度の概要 | 令和4年度 | 令和5年度 | 令和6年度 | 令和7年度 |
| | 減収額 9-10月 88,541千円 (臨時交付金) 11-12月 88,541千円 (臨時交付金) 1-3月 132,812千円 ※学校給食材料費徴収金に上 記金額を補填 | 【第3回予算補正分】 減収額 4-5月 87,400千円 (臨時交付金) 【第7回予算補正分】 減収額 1-3月 130,743千円 (臨時交付金) 357千円 (一般財源) | | |
| 事業費A (千円) | 309,894 | 218,500 | | |
| 国・県支出金 | 121,570 | 218,143 | | |
| 起債 | | | | |
| その他の特財 | | | | |
| 一般財源 | 188,324 | 357 | | |
| 職員従事者数(人・年)B | 1 | 1 | 0 | 0 |
| 人件費C=B × 6,700千円 | 6,700 | 6,700 | | |
| 概算コスト A + C | 316,594 | 225,200 | | |

3. 事業実施に当たりの必要性・有効性等

給食費を不徴収とすることで、給付型の対策に比べ、事務処理の手間が少なく確実な対策となる。また、給食費を徴収しないという方法によって、保護者の経済的負担軽減の観点から、迅速な対応が取れる。

4. その他特記事項

「物価高騰対応重点支援地方創生臨時交付金」を活用して事業実施する。